

令和3年度芽室高校（新聞局員）との意見交換会の総括(案)

1 目的

令和3年度議会活性化計画における主要事業の一つに「町民との意見交換会の深化と充実」（多様な住民参加の機会づくり）を掲げている当議会として、「住民への議会活動の認知度向上」を図るとともに「若い世代の考え方を政策に反映させ」「まちづくりを考え・参加する機会」のきっかけづくりとするために「高校生との意見交換会」を実施する。

2 開催日程・対象者

- (1) 日程 令和3年12月23日（木）16:00～17:00
- (2) 対象
 - ・芽室高校新聞局員 10名
 - ・議会編集企画会議メンバー＋担当委員
（渡辺・黒田・中田＋中村・常通・議会だより担当係長）
- (3) テーマ 「若い世代が読みたくなる『議会だより』」へ
～「ツタエル」を高校生から学ぶ「アゲイン」～

3 実施事業振り返り

- (1) 学校の意見・感想
 - ・自分たちがこれまで新聞づくりをしてきた経験を、意見交換の場で話すことが出来て有意義だった。
 - ・記事を簡潔に要約する、面白く書く等は「議会だより」ではできない部分だと思うが、生徒は学校新聞のルールで気ままに意見を言っていたので、正直申し訳ない気持ちもあった。しかし、こうした機会は滅多にないので、貴重な経験になったと思う。
- (2) 議会の意見・感想
 - ・課題解決型のテーマ設定は、生徒にとって達成感が得られやすいと感じた。（少人数だったことも意見を発言しやすい環境だったように感じた）
 - ・今年度「編集企画会議」を設けた中での新聞局との意見交換はタイムリーであり、明確な目標設定の元臨んだ事業であり学校（新聞局）も趣旨を十分理解してもらえたと感じ、有意義なものとなった。
 - ・特に新聞局の生徒達は、事前に渡した今年度前半の議会だよりを熟読し

ていたため、的確な指摘（意見）を聞けて、それをすぐ、次号の議会だよりに活かすことができ、なおかつ、町民からの評価の声も寄せられ、事業効果を実感できた。

- ・今回は生徒の意見をスピーディーに採用反映し、編集していることを学校とも共有することで、双方にとって信頼関係が強固となり事業継続の実施・拡大に向けて取り組んでいきたい。

4 今後に向けて

(1) 学校の課題・要望・方向性

- ・昨年度、今年度はコロナ禍という事もあり、新聞局員のみでの開催となってしまった。本来ならば、もっと大勢の芽室高校生と交流する機会や教科との連携も作りたかったが、公立高校で私立とは異なる制約が様々あり、難しかった。
- ・芽室高校は芽室町にある唯一の公立高校であるが、芽室町内生が少ない。それをマイナスと捉えるのではなく、客観的に町内と関わる事ができる存在として、貴重ではないだろうか。本校を志望する生徒数が年々減少するなか、今こそ、議会の方々や町の方々と様々な形で連携する必要があると思う。
- ・一度関わりが切れてしまうと再構築するのが難しい。どうか、小さな繋がりでも大切にし、続けて頂きたい。
- ・内容としては、少なくとも意見交換は続け、もし、機会があればまちづくりや、町のイベントに芽室高校生が関わりをつくる仕掛けがあると良いのかもしれない。（ジモト大学的な・・・）

(2) 議会の課題・展望・方向性

- ・テーマ設定を含め生徒の意見を町政に反映させる仕組みを研究し、町の課題解決に繋げる取り組みを目指すことである。
- ・2つの観点として、広く多くの生徒から意見を聞くテーマでの意見交換会、凝縮したコアなテーマで議論をする場合は少人数（学校側・議会側ともに）での意見交換会など区分も必要と考える。双方にとってメリットが大きい手法を模索すべき。
- ・テーマを最初に検討し、生徒から聞きたいテーマが無い時は次年度に行うなど柔軟な対応でも良いと考える。
- ・公立の芽室高校は担当教諭が移動される想定もあり、今後の事業については学校側と趣旨を共有することが必要となる。

5 総括

- ・ 芽室高校については、学年やクラスといった多人数というよりは小さな単位（新聞局や生徒会など）でも良いので、何らかの形で事業の継続を進めていく。
- ・ テーマ設定等議会側の課題はあるが、学校と趣旨を共有し、事業を継続していく。